

主任コラム12月号

主任 澤井 良子

12月に入り、今年も残すところ1か月となりました。子ども達は、園庭の落葉で遊んだりしています。その中に隠れているクヌギのどんぐりを見つけた1歳児が「コロコロ（どんぐり）あった！！」と小さな手の平に乗せて目をキラキラさせながら見せてくれました。「持って帰るの」と言う言葉に、嬉しかったことや見つけた喜びをお家の人に伝えたいんだなど見ていて温かい気持ちになりました。

10月・11月とひよこ、りす組には9名の新入園児が入ってきました。小さな子ども集団の中にスムーズに入って生活していける子もいれば、寂しさに泣く子もいます。その中で10月入所の0歳児の女の子は、誰か大人に抱っこをして欲しくて泣きながら保育士に両手を上げ、気持ちを体で伝えていました。抱っこをしてもらっていると安心するようで、視線が他の子の遊ぶ姿を追っていました。でも、保育士にも役割があり、給食の準備や、オムツを替えたりミルクをあげたりと子ども達が次の活動へスムーズに行けるようにしなくてはならず「あっ、そろそろ給食を取りに行かないと」と保育士が呟くと、その女の子は泣き出してしまい、保育士が自分から離れてしまう事を感じ取っていました。そして、次はどの保育士が自分を受け止めてくれるのか、ヨチヨチ歩きながら保育士の動きを見て、誰も抱っこをしていない人や物を手に持っていない人に両手をあげて抱っこを求める仕草をしていました。

私はその子の傍で7か月の子にミルクをあげていたので、私の所には抱っこを求めてきませんでした。まだ生まれて1年ちょっと、保育園に入所して1か月も経たないのに誰が気持ちを受け止めてくれるのかを見て判断している姿に驚きました。その後他の保育士が「ごめんね。待っててくれたんだね」と声を掛け抱っこをすると女の子は気持ちも落ち着いたようで泣き止みました。2カ月経った今では、保育士の傍でなく、1歳児の輪の中に入って遊んだり、子ども同士の関わりが増えてきました。

初めての保育園生活でお家の方から離れて大きな集団に入るとき、子どもは不安でいっぱいです。まず、大人（保育士）との関係の基盤や信頼関係・特定の大人との応答的な関わり（愛着関係）を通して大人との情緒的な絆が形成されると、他者（他のこども）との関わりができてきます。子どもが不安な時に受け止めてくれる存在や、泣き声で何を伝えようとしているのかを理解し受け止めてあげることが乳児保育の中では大切で、その関わりや経験から自分で考え行動できるようにもなっていくのではないかなと思います。この0歳児の女の子も、たくさんの保育士との関わりから信頼関係へと繋がっていったからこそ他の子とも関われるようになったのだと思うと、乳児と大人の関係の大切さを感じました。

